

マハナイ島のマングローブ林の現状、提案事業および将来計画の概要

1. マングローブ林の状況

マハナイ島はフィリピン中部ビサヤ諸島にある小さな島である。長さ 7.5 km、幅 2.1 km で、面積は 10.26 平方キロ、ボホール島の 3 km 北に位置する。周りは岩礁とマングローブに覆われた自然豊かな島である。

マハナイ島周辺は、全国に 21 ある海洋保護地域の 1 つである。しかし、一歩、マングローブ林の中に入ると養殖池で開発し尽くされているのを見ることができる。政府の許可のもと、60 年代、70 年代にマングローブ林を切り開き、ミルクフィッシュなどの養殖池として活用された。マングローブ林がなくなると台風による高潮が村の内部まで侵入し、大きな被害をもたらすこととなる。島の面積の数パーセントが養殖池である。

80 年代、90 年代に養殖産業が不振となり、養殖池は順次、廃棄されていった。多様な生態系を生み出していたマングローブ林が切り払われたことで近海漁業も不振で数年前からほとんどの住民が、海から魚を非効率に収穫することをやめ、海藻養殖に転換した。フィリピンでも特徴的な島である。マングローブ林から徐々に染み出す栄養塩が海藻成長の源泉であり、地元産業の礎になっているのがマングローブである。

廃棄された養殖池に植林し、マングローブ林の再生事業が行政の支援のもと開始されたが、ここ 10 年以上実施された形跡はなく、再生計画は放棄され、養殖池の約半分の面積が手つかずの状態である。

マングローブ林が地球上の植物の中でも気象生産力¹に優れているため、温暖化ガス CO₂ 固定による地球規模の環境対策に寄与することが期待される。



廃棄された養殖池（手前が植林されていない）

¹ 沖元陽介；「マングローブ生態系の光合成 CO₂ 吸収」，日本水産学会，2002

2. 提案する事業の概要

事業名：廃棄養殖池における植林による豊かで美しいマングローブ林の再生

カウンターパート名：マハナイ村役場 および 全世帯 110 戸

実施期間：2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日

対象国：フィリピン

植林実施場所：ボホール州マハナイ島の廃棄された養殖池（複数）

植林面積：4.0ha

植林本数：30,000 本

植林樹種：Pagadpat、Bungalon、Bakaw

植栽する養殖池の位置（マハナイ島中部）：



① 1.50ha 被覆率 30%

② 3.18ha 被覆率 40%

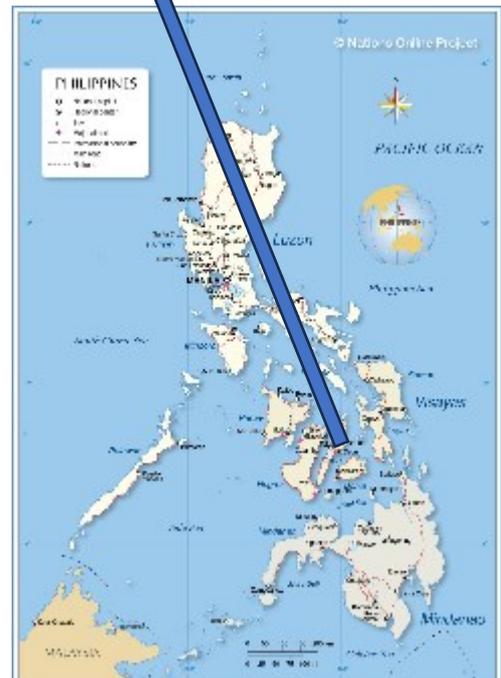
③ 2.22ha 被覆率 60%

④ 3.85ha 被覆率 90%

被覆率を艱難すると、対象とする 4 つのサイトの植栽可能面積は 4ha となる

3. マハナイ島の位置

マハナイ島



4. 2035年までの全体計画

事業名：カーボンクレジット化によるマングローブの森づくり促進

カウンターパート名：マハナイ村役場 および 環境資源省

実施期間：2026年8月1日～2035年1月31日

対象国：フィリピン

植林実施場所：ボホール島・ネグロス島から全国へ

植林面積：200ha（マハナイ島だけの数字）

植林本数：2,000,000本 植林樹種：Pagadpat、Bungalon、Bakaw

進捗状況：日本大手商社、国際スタートアップIT企業とコンソーシアムを組み、行政府と折衝中。守秘義務契約の関係で詳細を明らかにできないのでご了解ください。